

大阪大谷大学

令和六年度 入学試験問題（公募制推薦・前期A日程）

国 語

注意事項

- 一 問題用紙は、全部で十二ページです。解答用紙は一枚です。
- 二 解答用紙の所定欄に受験番号と氏名を記入してください。
- 三 解答はすべて解答用紙の所定欄に記入してください。
- 四 問題用紙は持ち帰ってください。

□ 次の文章は、詩人萩原朔太郎の娘、葉子の回想記である。これを読んで、後の問に答えよ（設問の都合上、原文の一部を改変している。設問に字数制限がある場合、句読点・符号等はすべて字数に含む）。

父はとても正直で、嘘や、その場の取り繕いということのまったくできないたちだった。

私も父に嘘を言われたことは、一度もなかったし、祖母も「朔太郎は馬鹿正直で困ってしまう」と、言っていた。

父は正直なばかりでなく、気が弱すぎて、A。

晩年、父が「新女苑」の詩の選をしていた時だった。他の仕事もあり、詩の選の方は、今日の夕方までが、締め切りで、ぎりぎりになっていたらしい。

① こんな時に限って、前から電話もなく、突然これという用事もない人が来て、何時間も椅子に掛けて、父を相手に動かさないことがあったが、こういう人には、はっきり玄関で、今日は忙しいからと、断れば良いと思うのだが、それをするのが、とてもつらいらしかった。

その日父は、いつもよりiと、朝昼兼帯の食事の後、それまで神経質に何か考えていた顔を、祖母の方に向けて、「今日は、忙しいから、もし客が来たら別の日に来てもらってくれ」と言って、すつと二階に上がって行った。その時、いつもより痩せて、骨ばかりのうしろ姿が、私の目に残った。父が来客を断るなど初めてのことだった。どんなに忙しくても突然の客にも会っているのである。私は父を見るに耐えなくなり、

「私に手伝わせて」と、頼んだ。何もわからないくせに、階段にいる父を追いかけに行った。そのころ、私は「新女苑」を愛読していたから少しは手伝えると思ったのだった。父は階段の途中でふり返ると、

「何？ 葉子は何をするのだ？」と、言った。

「良いのだけでも、私が選んでおけばそれだけ早くできるから……」私が言い終わらないうちに、父はいつになく、はっきりした強い語調で、

「葉子にそんなことができるものか!」と、怒ったように言ったかと思うと、どんどん階段を上がって行ってしまった。  
私は、父の「葉子になんかできるものか」と言うことばが耳に残り、胸を塞いで、自分の詩に対する浅はかな考えを、大変恥ずかしく思った。

昼過ぎ、案の定、来客があった。玄関で、女中が応対しているらしかったが、困ったような顔で、

「奥さま、先日の方がどうしても十分でいいから、旦那さまに会いたいとおっしゃるのですが……」と訴えると、祖母は、

「忙しいから今日は会えませんと、はっきり言いなさい」と、強く言うのだった。するとまた ii と、玄関に行つて、

「何日なら会えるか聞いてくれとおっしゃるのです」と言う。

祖母は玄関から離れた、茶の間の前の中ロウカに突つ立ったまま、「いやだねえ」と、女中と相談しているのである。玄関で、お客さまの咳払い一つにも、今にも、この家に闖入して来やしないかと、三人は、小さくなってしまった。私は、思いきつて、父に告げに二階に上がつて行つた。タバコの匂いと、ケムリでむんむんする中に、父は行儀よくきちんと坐っていて、机や畳いっぱいに応募原稿があった。父は、さつき私を怒った時とは、打つて変わったオクビヨウに顔色を変えた表情でキンチヨウして待っているのだった。

「どうしても会いたいって帰らないけど」と、言うとき、恐怖におののくように、父は瘦せた膝を、iii どうしろの壁の方まで、にじり寄せて行つた。そして目は大きく見開いたままで、目の前のユウレイに怯えているような格好をするのだった。

私はそんな父の様子を見ると、自分まで、とても恐ろしくなつてきて、どきどきした。

「お父さんのこと、なんていったのだ?」と、やつと口を開いた父は真剣に言った。

「今日は、忙しいから会えませんでしたっていったの」と言うとき、

「いないとは、いわないだろうね」と、ぎよつとした目を私に向けて、念を押すのだった。私は、深くうなずいてみせると、それで父は、やつと安心したような顔になったかと思うと、もう立ち上がつて、半分駆け出すように早足で、階段を降りて行ってしまった。

階段を降りれば、右側の踊り場の向こうは、お客さまの立っている三和土石なので、のれんの下から、すぐ父の膝のあたりが見えるのである。だから降りれば会うしかなかった。

私は、父がまた玄関で断れないで、何時間も時間を潰されてしまつて、今夜は徹夜しなくてはならないだろうと思うと、痩せている父を思つて、くやしかつた。

⑤ 忙しい時に限つて来るもので、夕方までに帰ってくればよい方で、ひどい人になると、夜中までも父を困らすのであつた。

(萩原葉子『父・萩原朔太郎』による)

「新女苑」の詩の選をしていた……戦前の女学生向けの雑誌「新女苑」の投稿詩の選者をしていた。

問一 二重傍線部 a ㄱ e のカタカナを漢字に直せ。

問二 空欄    に入る最も適当な語を、次のアㄱエの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えよ(同じ記号は二度使えない)。

ア じりじり      イ せかせか      ウ ぐずぐず      エ すごすご

問三 空欄  に入る、父に対する筆者の思いとして最も適当な語句を、次のアㄱエの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 滑稽だった      イ はがゆいだった      ウ 情けなかった      エ 感心してしまった

問四 傍線部①「こんな時に限って」、⑤「忙しい時に限って」と、筆者は二度も同じ表現をして、来客があるのを想定している。そのことがよく表現された言葉遣いがあるが、それを本文中から三文字で抜き出して答えよ。

問五 傍線部②「大変恥ずかしく思った」とあるが、なぜか。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 父のために良い詩を選んでおけると思っていたが、父と判定基準が異なることを考えなかったから。
- イ 及ばずながら父を手助けしようと思った申し出だったが、あまりに明白に拒絶されてしまったから。
- ウ 良い詩を選ぶという仕事は自分にもできるといううぬぼれが、専門家の父を怒らせてしまったから。
- エ 父を思いやって言ったものの、父が自分のことをあまり高く評価してくれていない、と知ったから。

問六 傍線部③「やっと安心したような顔になった」とあるが、なぜか。三十五字以内で説明せよ。

問七 傍線部④「くやしかった」には、図々しい来客に対する「くやしさ」と、父のふたつの性格に対する「くやしさ」がある。その「くやしさ」について、五十字以内で説明せよ。

問八 萩原朔太郎について説明した文のうち、最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 反戦詩集『鮫』や『蛾』の詩人として尊敬を集めた。
- イ 詩集『邪宗門』のほか、短歌や童謡も広く知られる。
- ウ 口語自由詩の完成者で、代表作は『月に吠える』。
- エ 象徴主義の詩人だが、流行歌の作詞家としても有名。

□ 次の文章を読んで、後の問に答えよ（設問の都合上、原文の一部を改変している。設問に字数制限がある場合、句読点・符号等はすべて字数に含む）。

検索する者は、然るべき疑問をもち、それに答えるための検索語を思いつく必要がある。  
以上のことを手順として記してみよう。

- ① 知りたいが不明のことがある（動機／疑問）
- ② それを調べるのに適した検索語を考える（発想）
- ③ 検索する（操作）
- ④ 検索結果が表示される（確認）
- ⑤ 検索結果を読んで調べたかったことを特定する（検討）
- ⑥ 見つからなかった場合、②か④に戻る

①の「知りたいが不明のことがある」のが出発点だった。この動機、あるいは疑問、つまり知りたいことがなければ、そもそも何を検索してよいかも分からないし、決められない。

i、①の問いに答えるために検索をする。だが、検索するためには②の「それを調べるのに適した検索語を考える」という発想が必要となる。このとき、②の検索語を考えたり思いついたりするカテゴリー<sup>a</sup>では、内部記憶<sup>I</sup>（長期記憶）が材料になる。

とりあえず適当に検索をかけて、あらわれた結果を見て、A 検索するという方法もある。だが、その場合でも、結局のところ、検索結果を読んで理解できなければ、そこから先へ進みようがない。目にした文章を読んで理解するには、やはり内部記憶がもの

をいう。

(中略)

一例だけ挙げておこう。スマートフォンや車にトウサイ<sup>b</sup>されるGPS (Global Positioning System : 全地球測位システム) がどういうしくみなのかを知りたくなった。

そこでネットを検索してみると、どうやらその基礎には相対性理論があるらしいと知る。そこで、相対性理論について知りたいと思つて検索をかける。たしかに日本語で書かれたウェブページや論文が山ほど出てくる(なかにはバンドの話も混ざっているようだ)。怪しげな説明、不確かな解説も混ざっている。玉石混交の検索結果から、適切な説明を選ぶにはどうしたらよいか。しかも、自分がまだよく理解していないテーマについて。

そう、自分がよく理解していないことがらについて、ネット検索で学ぶ際には、この難問<sup>II</sup>が必ずつきまとう。関連するページは山ほど出てくる。だが、それを信用してよいかは判断できない(なぜなら、まだ理解していないから)。選択を間違えれば、理解するどころか誤解してしまうかもしれない。さらには自分が誤解していることに気づけないかもしれない。

① ① 首尾よく、適切な解説を選べたとしよう。だが、母語で書かれているからといって、それらの文章を読んですんなりと理解できるかといえ、そういうわけにはいかない。

ii、それらの多くは、ある学問領域について一定のトレーニングを積んだ人が読めるように書かれているからだ。「ここまでは理解した上で読んでね」という前提がある。そうしたトレーニング抜きには理解しがたい。つまり、内部記憶に必要な知識を蓄えている必要がある。母語を読めるからといって、なんでも読めるわけではないのだ。

それでも知りたければ、相対性理論にかんして適切に書かれた入門書や、その手前が必要となる基礎的な数学を復習する必要がある。ネットで検索できたとしても、そこから適切なものを選び、理解するには、自分の内部記憶がおおいものを言うわけである。

他にも、法律や各種のケイヤク書<sup>c</sup>、コンピュータ用語、あるいはさまざまな学術分野について書かれたものについても同様である。あるいは、一五〇年ほど前の明治期の文献や、江戸期やそれ以前の文書も、日本語で書かれている。だが、現代日本語を母語とする人



が、なんのトレーニングもなしに読めるかといえ、やはりそういうわけにはいかない。つまり、そうした文章を読むために必要な知識や経験を積んで、自分の内部記憶を整えない限り、母語だからといってなんでも読めるわけではないのだ。

また、知りたいことに応じて、適切な検索語を考える難しさ／易しさも変わる。

例えば、いまいる場所の近くにカフェがあるかどうかを知りたいければ「金沢 & カフェ」などと検索すればよい。この場合、カフェという施設があること、それがカフェと呼ばれることを知っていれば検索できるだろう。こう言えば簡単そうだ。

iii、もしいまいる場所が旅先で、母語も通じず、読み方も分からない言語が使われている土地だとしたらどうか。日本語でいう「カフェ」や「喫茶店」を、その言語でなんというのか分からない。試しに英語で *cafe* と検索してみたが芳しくない。そもそもカフェに相当する施設はあるのだろうか……。

こんな場合、一見簡単そうなカフェの検索も難しくなる。なぜこんなへんてこな例を出しているのか。カフェを検索するというのも、実際にはその土地に「カフェ」と呼ばれる店があることを経験によって知っており、それを「カフェ」と表記するのだということを知っているからこそ可能になる、という様子を確認したかったからである。もしそうした現実の世界やそれに対応する言葉について、内部記憶をもっていなかったら、B ことさえ覚束ないわけである。

さて、この問題について、ひとまずこの場での結論を出しておこう。ネット検索があればわざわざ記憶しなくてよいか。外部記憶装置は、内部記憶の代わりになるのか。

必要なときにネットで検索できればそれで済む場合とそうでない場合がある。以上では、③「そうでない場合」について検討してきた。では、ネット検索で済むのはどういう場合か。

例えば、レストランの予約をしたいので電話番号を知りたいとか、今日の外国カワセ市場の動きを知りたいとか、郵便の料金を確認したいとか、電車の時刻を知りたいなど、知りたいときに検索すればそれで用が足りる。

これは、まとめてしまえば短期記憶で用が足りる課題である。短期記憶とは、一時的に覚えている状態だ。

次に一番ホームから出る電車は何時発か。調べてみたら一四時二六分発だと分かる。その電車に乗るまでのあいだ、「一四時二六分

発」であることは重要な情報なので覚えるなり、スマートフォン画面に表示しておくなりするだろう。しかし、その電車に乗った後は、用がなくなる。忘れて構わない。自分がいつどの電車に乗ったかという興味を持っている場合でもなければ、程なく忘れるだろう。こういう場合、ネット検索で調べがつけば、それで十分用が足りる。

他方で、右で検討した例の多くは、短期記憶ではなく、長期記憶に関わることだった。レシピの読み解きにしろ、プリンターのトラブル解決にしろ、GPSの理解にしろ、過去に練習したり理解したりしたことをもとにして、検索した結果を読んで理解できるわけがある。

iv、長期記憶を土台として、いま目にした検索結果を短期記憶に入れて対処している。先ほど使った言葉に対応させるなら、長期記憶とは内部記憶であり、短期記憶とは外部記憶装置などから一時的にチカクを通じて頭に入れたものだ。

そして、いくらネットという外部記憶装置に膨大な情報やデータがあり、それを検索で見れば意味がなかった。肝心の自分の内部記憶、つまり長期記憶がそれを理解できるようになっていなければ意味がなかった。

せっかくプリンターのトラブルの対処法が書かれたウェブページに辿り着いても、そこに書かれた文章を理解できないのではどうしようもない。そもそも長期記憶に知識が入っていない言語で書かれたものは、いくらネットに情報があつて目に入れることができたとしても、読むことさえできないわけである。

以上を踏まえてつけ加えれば、ここで「外部記憶装置」と呼んできたコンピュータの記憶装置という名称は、一種の擬人法であることに注意しよう。コンピュータをいわば人間の脳に見立てて「記憶 (memory)」と呼ぶわけだが、これはいささか紛わしい。その正体は、データを記録する装置である。

(山本貴光『記憶のデザイン』による)

相対性理論……アインシュタインによって確立された物理学の基礎理論。従来の時空間の概念を根本的に変更した。

問一 二重傍線部 a ㄱ e のカタカナを漢字に直せ。

問二 空欄 

i
---

iv
----

 に入る最も適当な語句を、次のア～エの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えよ（同じ記号は二度使えない）。

ア 言い換えれば      イ だが      ウ そして      エ なぜなら

問三 傍線部①「首尾よく」、②「芳しくない」、③「もっぱら」の意味として最も適当なものを、次のア～エの中からそれぞれ一つ選び、記号で答えよ。

① 首尾よく

ア はじめから      イ うまいぐあいに      ウ 一貫して      エ 漏らすことなく

② 芳しくない

ア 理解できない      イ 発見できない      ウ 様子がわからない      エ 状態がよくない

③ もっぱら

ア 徹底的に      イ とりあえず      ウ 主として      エ 真剣に

問四 空欄 A には「関連する多くのことが次々と現れること」という意味の慣用表現が入る。空欄 A に入る最も適当な語句を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 連綿と
- イ 芋づる式に
- ウ 頻繁に
- エ 重ね重ね

問五 空欄 B に入る最も適当な語句を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 調べたかった情報を見つける
- イ 検索結果を表示させる
- ウ 外部記憶装置を代わりに使う
- エ 検索語を思いつく

問六 傍線部Ⅰ「内部記憶」とあるが、何について記憶するのか、本文中から十五字で抜き出して答えよ。

問七 傍線部Ⅱ「この難問」とあるが、それについて説明した一文を本文中から探し、その最初の五文字を答えよ。

問八 傍線部Ⅲ「外部記憶装置は、内部記憶の代わりになるのか」とあるが、この問題提起に対する筆者の結論を、筆者がそう結論する理由を明記した上で、本文中の言葉を使って八十字以内で答えよ。

問九 傍線部Ⅳ「一種の擬人法」とあるが、筆者がここで「擬人法」という言葉を使っているのはなぜか。本文中の言葉を使って、二十五字以内で答えよ。

問十 次のア～エについて、この文章中に書かれている内容に合っているものには○で、合っていないものには×で、それぞれ答えよ。

- ア トレーニングを積みめば、母語で書かれたあらゆる文献等が理解できるようになる。
- イ 母語の通じない旅先で「カフェ」を探すような場合でも、内部記憶が重要である。
- ウ 長期記憶の土台となる外部記憶装置の実体は、データを記録する装置だと言える。
- エ 郵便料金や電車の時刻等は、ネット検索で調べがつけば、それで十分用が足りる。